

イチキ大工通信

NO.4

お問合せ

mobile:080 (1059) 1426

mail:info@ichiki-daiku.com

久しぶりの通信になってしまいましたが、工事に向けての作業は続けています。着工に向けてスムーズに動けるよう、年明けより約1か月間、奈良県天川村にて、以前ご紹介した神田大工と共に、木材の加工作業をしていました。寒い地域で足先・指先がキンキンに冷える中の作業は辛さもありましたが、自然の恵みを感じて、大工仲間と共に作業を楽しむことができました。

私自身も、最近の工事ではなかなかこういった加工作業をする機会がないので、木に自分の手で触れ、木の性格を見ながらの加工作業はとても生き生きとし、気持ちがいいものです。

夏から奈良へ通いながら進めてきた加工作業も終盤となり、建て方が始まる前にもう一度出向き、終わりです。加工が終わった材料は、木材の調達先である、地元の「美吉野木材」さんから横浜まで運んでもらいます。「美吉野木材」代表の喜良（きら）さんは、大工であり、林業もやっている方です。使う材料から、人が関わっていることを実感する奈良での日々でした。

材料加工の様子 ～奈良県天川村にて～



奈良県の吉野で育った杉の木です。
いい香りがしますよ！



「墨壺」という壺に入れた墨を使って、加工する箇所を目印をつける「墨付け」という作業をします。この目印に合わせて、大工は木材を加工していきます。その加工のことを、「刻み（きざみ）」と言います。



鉋（かな） 、 鑿（のみ） 、 さしがねなど・・・大工の使う道具はたくさんあります。使い捨てではなく、手入れをして大事に一生使っていく物です。





材料をはめ込んで接合するための「ホソ穴」を掘っています。



材料が一本では届かないので、「鎌」という継ぎ手を作っています。



材料を平らにしたり、表面をきれいにするために、鉋（かんな）をかけます。

いろいろな技法～追掛大柱継ぎ（おっかけだいせんつぎ）～



これは、屋根を斜めに支えるための材料、「垂木（たるき）」です。長さが足りないので、材料と材料をつなぐための継ぎ手を作り、つないでいきます。3mと3mをつなぎ、6mの垂木になります。写真は、仮組みと言って、継ぎ手の硬さを確認しているところです。

木を組むにも様々な技法があり、場所によって技法を変えて木を組んでいきます。

建てる前のこの加工作業は、大工にとっても大事な準備の作業です。木に触れて大切に一つ一つ計算しながら加工していくことは、これから建てる建物を想像しながら楽しみな時間でもあります。土地の準備が整えば、いよいよ建て方が始まります。建てていく過程も、お知らせしていきます。